特集 SPECIAL

大下議員、重森議員が聴く
（取材日２月10日）

黒瀬さくらバス運行協議会の活動について

表紙写真／話をお聞きした皆さん

東広島市内には公共交通空白地域や不便地域の解消のため、４つの町でコミュニティバスが運行されています。

今回、黒瀬町で地域が主体となって、健全な運営により運行されている黒瀬さくらバス運行協議会の方々に運行開始から現在に至るまでの経緯を伺いました。

地域公共交通　黒瀬さくらバス
「わしらのバスを走らそう!!」

Q　運行開始までの経緯について教えてください。

矢藤　平成21年３月に「黒瀬の公共交通を考える会」が発足し、①運行主体は地元団体であること②既存のバス路線と重ならないこと、を念頭に検討が始まりました。運行受託事業者の選定に当たり、何度も事業者を訪ねるなどの苦労の末、平成25年５月に住民自治協議会を母体とした「黒瀬さくらバス運行協議会設立準備会」の設立にこぎつけました。その年の10月に開催した総会で「黒瀬さくらバス運行協議会」をスタートさせ、翌、平成26年６月23日に運行開始、５年がかりでのスタートとなったわけです。

Q　運行状況について教えてください。

岡田　運行エリアは既存のバス路線との重複を避け、町内全域を網羅する６つのルートとし、運行日は月曜日から金曜日までの祝日を除く週５日です。運賃は１回大人200円、子どもや障害者は100円です。11枚綴りでお得な回数券の販売も始めました。

Q「黒瀬さくらバス」の特徴について教えてください。

岡田　黒瀬さくらバスは、市が直接運営している豊栄、河内、安芸津のバスと違って、地域住民で構成された「黒瀬さくらバス運行協議会」が主体となって運営していることです。バスの運転などの業務は、地元に営業所がある中国ジェイアールバス

プロフィール

黒瀬さくらバス運行協議会
会長　岡田　博陽さん

黒瀬さくらバス運行協議会
初代会長　矢藤　道範さん

表紙写真／話をお聞きした皆さん
前列　本岡　栄さん（左）
後列　胡田清治さん（左）　藤原博明さん（中）　上藤住一さん（右）

① 取材風景
② 運行中のさくらバス
③ 黒瀬町健康福祉まつりでの展示
④ 黒瀬さくらバス運行協議会設立総会
⑤ 出発式

に委託しています。バスの呼び名は黒瀬町の町花・町木が「さくら」であったことにちなんで、「黒瀬さくらバス」と名付けました。住民の方々が一目見てすぐにわかるよう、さくらをモチーフにしたデザインとなっています。

Q　ご苦労されている点は。

矢藤　運行開始当初は4年間、赤字経営が続いていましたが、細かなアンケート調査やドライバーさんから聴き取りを行うなど、毎年運行計画の見直しを行ったことから、利用者が増加し、5年目の平成30年度に黒字に転換しました。以降、コロナ禍でも現在まで黒字が続き、高齢者等の移動手段の確保に貢献しています。

岡田　黒瀬さくらバスの運行経費は、国と市の補助金、運賃収入でまかなっていますが、赤字が出た場合は、町内の各住民自治協議会に負担をお願いしています。そうならないためにも、黒瀬さくらバス運行協議会では、利用目標の設定と利用率向上の取組みを行っており、令和4年度は6路線1便当たりの利用者数を3.2人に設定しています。運行に当たっては、①利用者向けのアンケート調査を実施し、地域の方や利用者の生の声を聴く②月別利用状況を分析し、運転手と連携し利用者の変化を迅速に把握する③調査と分析結果を活かし、効果的な路線の見直しやバス停の位置を検討する④実施に際し、※黒瀬地区自治協連合会との連携を密にし、迅速な対応を図る、この4つのアクションで、安定したバス運営と利用目標の達成を目指しており、近年では利用状況に変化が見え始めてきました。常に新たな取組みも協議しながら利用者を増やし、黒瀬町内全域の公共交通のネットワークを構築し、住みやすく安心して暮らせる生活基盤を維持することに努めています。いろいろな困難はありますが、地域が一体となって考えていくことが自分たちの交通手段を守っていくことにつながります。

※黒瀬地区自治協連合会　黒瀬町内の5つの住民自治協議会（板城西、上黒瀬、乃美尾、中黒瀬、下黒瀬）が連携し、課題や情報を共有することで地域の特性を生かした市民協働のまちづくりを推進するための組織。必要に応じ、各住民自治協議会の会長からなる会議を開催している。